

平成28年度 第2回理事会 議事報告書

1. 日時 平成28年6月10日（金） 午後1時～午後4時30分
2. 場所 岸記念体育会館 4階 特別会議室
3. 出席者 理事16名、監事1名
（* 欠席理事3名、欠席監事2名）
4. 陪席 畔蒜 均（千葉）、大江直之（事務局長）
5. 会長挨拶 （高橋会長）
来る6月28日の定時社員総会で役員改選を控えているが、改選後2年間の新執行部の目的は、協会の再構築と確固たる正常化であるので、これを念頭に、新理事各位は執務にあたって頂きたい。
本日の理事会も、報告事項や審議事項が多く、時間が限られているので迅速な議事運営に協力願いたい。

6. 報告事項

（1）正会員の変更について

群馬	山崎	義哉	55歳	4月1日～
兵庫	杉本	喜一	66歳	6月9日～
京都	西川	勝	64歳	5月29日～
富山	米本	勝則	66歳	5月29日～
福島	氏家	利明	42歳	6月9日～
高知	小松	理亭	69歳	5月30日～
愛知	黒宮	彰	68歳	5月1日～

* 福井県協会については本日の理事会までに新正会員選出ができなかったため、来る6月28日開催予定の定時社員総会前に年齢制限に抵触しない正会員を選出する旨、報告を受けている。
定時社員総会までに理事会の予定が無い場合、福井県協会の正会員変更については会長一任とすることです承。

(2) 役員選考委員会について

去る5月16日(月)、役員選考委員会が開かれ、学識経験者理事候補者及び監事候補者が次の通り選出された旨報告。

《学識経験者理事候補者：9名》

1. 渡辺 幹也 (静岡) *現副会長
 2. 不老 安正 (福岡) *現監事
 3. 及川 悦郎 (本部) *現専務理事
 4. 千葉 守男 (福島) *現常務理事
 5. 佐藤 和夫 (秋田)
 6. 工業会または射場協関係者
 7. 中村 美穂 *東京五輪スポーツマネージャー候補者
 - 8~9: 高橋会長へ一任
- *補欠候補は人選せず、欠員が生じた場合は再協議とする。

《監事候補者：3名》

1. 安田 岸雄 (愛媛) *現監事
 2. 江野澤吉克 (千葉) *現理事：県会議員
 3. 井出 益弘 (和歌山) *現理事：県会議員
- *補欠候補者は相馬正(青森)とする。

ブロック理事に前述の監事候補者が選出された場合は、理事・監事の重任は定款上できないため補欠候補者を監事候補者とする。

(3) ISSF ジュニアワールドカップドイツ大会について

当協会より、スキート女子種目：折原梨花選手(栃木)、ジュリー(審査団)として加藤衛氏・永島宏泰氏を派遣し、渡辺久雄常務理事が帯同し競技会を視察した。

今回のジュリーメンバー派遣は強化委員会で行なったが、今後は競技委員会にて人選・派遣することが望ましい。東京五輪の開催に向け、有資格者を積極的に国際競技会へ派遣し、審査団・審判員の技能向上に努めてほしい。

(4) ISSF 報告・リオ五輪関係

《ISSF 報告》

去る平成28年5月30日、ISSF 本部事務局（ドイツミュンヘン）にて面談。

(ISSF) シュライバー事務総長、ブローキャンプ技術委員長、
ケビントレーニングアカデミー委員長、
ブローキャンプ千恵美（陪席）

(日クレ) 高橋会長、及川専務理事、渡辺常務理事、唐澤事務局

◆リオ五輪以降のダブルトラップ枠について

Q：2020年東京五輪でダブルトラップ男子種目が減らされる情報の是非

A：IOCの方針により、種目数や選手数を全て男女均等がISSFへ要求されている。従って、ISSFは今後射撃種目全体のQP配分を見直さなければならず、今後の協議・検討課題であるため、現時点では言及できない。

◆ISSF・Cコーチ講習会について

Q：日本国内でDコーチ講習会に続きCコーチ講習会を日本語使用で開催したい。

A：下記2つの理由で却下。

(1) ISSFのCコーチ以上の資格は、英語講習で質の高い内容を教育することが重要であるため、英語による講習が必至。

(2) 講義内容はクレーだけではなく、ライフル・ピストル・スポーツサイエンスの4分野で同時提供する。全ての競技種目に精通することがISSFライセンスの正当性・評価にあたる。

◆ワールドカップ大会の日本開催について

Q：2020年東京五輪のQPが付与されるワールドカップ大会を日本で開催したい(クレー射撃のみ)。

A：ISSF規定では、ワールドカップ実施にあたり同時進行できる射面が最低4射面必要であり、QPが付与されるワールドカップ大会はオリンピック開催前年であるため、非常に多くの選手がこれに参加する。経験上5射面必要である。

日本は1999年熊本大会以降ワールドカップを開催していない

ブランクがあり、唐突な開催は困難。
経験値を上げるために、規模の小さなワールドカップ・ファイナルやジュニアカップの開催を推奨する。

◆平成28年度国際審判員講習会について

Q：2020 東京五輪に向けて、審査団・審判員の養成に資するため国際審判員講習会を日本で開催したい。

A：ISSF より了承され、キプロス国のペトロス氏を派遣講師として推薦され、来年1月の実施を確認した。

◆今後のアジアについて

Q：アジア地域の友好・発展を進めるにあたり、ASC・ACSF に対する ISSF 事務総長のお考えを伺いたい。また、年に1回開催される ACSF 選手権へ QP を付与いただきたい。

A：ISSF はアジアにおいて ASC の1団体を承認している。QP 付与の管轄は ASC であり、上部団体である ISSF が QP 付与の提案を ASC へ押し付けることはできない。

また、ACSF をアジアの種目別協会としても認証することはできない。

◆東京五輪スポーツマネージャーについて

Q：当協会は「日本人」のスポーツマネージャーを採用したいと考え、ISSF 推薦のピーター氏にその人物のサポートをお願いしたい。

A：IOC 総会で承認された「アジェンダ 2020」によれば、東京オリンピックの運営責任は ISSF であり、ISSF が推薦するピーター氏がスポーツマネージャーへ就任、同氏のサポート役を日クレや日ラが推薦する日本人をお願いしたい。

日クレの推薦者は過去の経緯により賛同できない。

◆2016 リオ五輪の ID カードについて

Q：リオ五輪視察の為、行動制限の少ない ISSF 発行の ID カードをいただきたい。

A：リオ五輪組織委員会への申請〆切が4月末であったため、不可能である。東京五輪組織委員会のオブザーバー枠の使用を推奨

する。

《リオ五輪関係》

◆リオ五輪クレール射撃競技の放映 J-COM が担当するが、メダル獲得の可能性が大きい女子トラップについては JC（NHK 幹事会社）が担当するよう変更になった。

その為、JC による女子トラップはライブ放送のため、放送スタジオは現地リオとなり、J-COM によるそれ以外の種目は録画放送のため、放送スタジオは東京となる。

変更前は、井上恵選手に解説をお願いしていたが、移動時間等の問題が発生したため、井上選手に確認したところ、リオ・日本の双方を引き受ける旨の快諾をいただき、両解説をお願いした。

◆リオ五輪帯同役員の割当について JOC より指示があり、クレール射撃競技の割り当てが 1 名のみとなったため、参加選手の意向を確認し永島事務局員を帯同させることとした。

(5) 平成 28 年春季本部公式大会（宮城）について

* 成績詳細はホームページにて記載済み

(6) 競技委員会報告

第 2 回委員会を去る 5 月 20 日に実施。

◆各ブロック選出のトラップ・スキート担当役員について

寺西氏より近畿ブロックの選出報告があり、全ブロックから担当役員が選出されたが、70 歳以上の選出者が複数名いるため、今後 70 歳未満の再選出をお願いすることとした。

◆春季本部公式（宮城）反省点について

次の点が報告された。

- ・ファイナルの時間短縮（クラス別選手紹介と標的放出同時開催）
- ・会場内据銃練習場の設置、レフェリーのチームワークの徹底
- ・本部公式開催時に地元手伝い要員の確保
- ・競技役員と選手間の大会開催中の雑談の自粛
- ・作業指示システムの再確認

◆夏季本部公式①（岡山）の派遣役員について

式典時の演出や提案が多々あり寺西氏に一任した。

大会会長	三浦副会長（不都合な場合は渡辺副会長）
審査団長	千葉守男 トラップ中園氏 スキート佐藤氏
競技委員長	山下競技委員長
競技副委員長	寺西寛
審判員	* 寺西氏に依頼
ドーピング委員	中根委員長に依頼
総務	唐澤事務局

◆ダブルトラップ種目別の導入について

岡山本部公式より導入予定であったが、前記の ISSF 報告を参考導入を見送り、今後の ISSF の動向を注視する。

高橋会長からの提案で、岡山本部公式よりクレ射撃の普及・振興の促進の為にCクラスを設けることとした。

◆研修会の実施について

前回7月頃に研修会開催を予定していたが、リオ五輪直前であり順延する。実施時期は継続審議とし、研修会は競技ルールや運営方法以外に役割や再認識を促すカリキュラムも追加した。

◆その他

「国内ルール導入アンケート」の結果や競技規定の追加資料を配布し、情報・認識を共有した。

国際審判委員講習会の実施は来年1月末に伊勢原射撃場にて実施予定。

(7) 義援金について

現在 1,719,324 円集まっているが、各地方協会でもまだ確認の取れていない協会が13県協会ある。

未曾有の災害に対して協会が一致団結して創意を示すことが肝心であるため、確認の取れていない地方協会には直接案内を送付し期限義援金への協力をお願いすることとした。

7. 審議事項

(1) 平成27年度事業報告(案)について

本戸常務理事が担当する日本体育協会への活動も追記することで原案を承認。6月28日開催予定の定時社員総会へ理事会案として上程することを確認。

(全員挙手承認)

(2) 平成27年度収支決算書(案)について

財務状態は改善しているが、事業実施で強化等の補助金関係は100%の助成ではない。その為やればやるほど協会負担が増加するため、早急なそれ以外での(後援企業会等)協会収支の改善が必要。

協会運営で赤字が出た場合は、理事全員で赤字の補填をする覚悟で収支を注視していきたい。

原案が承認され、6月28日開催予定の定時社員総会へ理事会案として上程することを確認。

(全員挙手承認)

(3) 参与の委嘱について

本部より過去の協会へご尽力いただいた方々のリストが提出された。リスト候補者のうち、小平光優氏、渡辺洋一氏、加藤一義氏が参与として承認され、他の候補者については所属地方協会の了承を経た上で再度審議することを申し合わせた。

承認された参与方々には、今後とも執行役員と懇親会などを通じご助力をお願いしたい。

また、役員改選後、理事・監事を退任される方が居た場合は、参与として委嘱する。

(全員挙手承認)

(4) 役員改選後の協会運営について

総合戦略会議を頂点に、理事会に原案を上程し審議・決定・承認後に各専門委員会で事業執行をする協会運営を基本にする。

(全員挙手承認)

*総合戦略会議 会長 副会長 専務理事 各専門委員長
各専門副委員長 有識者等(専門スタッフ)

理事会 日本クレー理事会（常任理事ブロック理事監事）
各専門委員会 各専門委員会スタッフ＋担当事務局職員

（５）表彰規定の作成

基金を立ち上げ原資を募り、表彰規定を作成し本部・地方協会に諮り対象者を選出し表彰する。

- ・ 表彰は賞状と粗品（商品券など）
- ・ 毎年の総会に合わせて贈呈する。
- ・ 選手の実績、地方協会で功労、役員の実績、専門委員会での功労、地方協会の功労など個人・団体に関係なく対象とし表彰する。
- ・ 早急に規定原案を作成し、原案作成後理事会へ提案。原案作成は丸石・増田両理事に依頼する。

（全員挙手承認）

（６）その他

定時社員総会の開催日時は６月２８日（火曜日）となることが報告された。

以 上